

# 家庭愛和は真劍勝負

上 廣 榮 治

夏休みのシーズンであります。皆様におかれましても、お盆休みの帰郷や家族旅行を通じて、ふだんに増して家庭愛和の実を秘らせていらつしやることであります。しかし、その一方で、近年のこのシーズンは、子どもたちの非行行動が取り沙汰される季節であることも、また事実です。

なぜそうしたことになるのでしょうか。夏休みがいつもと違うのは、学校の目が届かないということだけですが。しかしその分、親の目は他の季節より、より濃密に子どもたちに届いているはずですが。とすれば、残念ながら夏の非行の増発は家庭のあり方に原因がある、と言わざるを得ないことになりそうです。

この夏のはじめ、中央教育審議会が一年間に及ぶ審議の結果をまとめて発表しましたが、その中で私の目をひいたのは「**一家団欒の食事**」のすすめでした。食事を共にして、子どもをよく観察し、子どものストレスや悩みを芽のうちに摘み取れということです。まことにものともな指摘です。

しかし考えてみると、食事を共にするなどということは家庭生活の基本です。それを、事あらためて